

特別支援教育推進通信

平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、国・地方公共団体(公立学校を含む)においては、「合理的配慮の提供義務」が課せられました。

一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じて決定された「合理的配慮」は、『個別の教育支援計画』に明記するとともに、『個別の指導計画』にも活用することが望ましい、とされています。

千葉県教育委員会では、特別支援教育課から「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の様式と記入例が提示されています。

※参照 千葉県教育委員会ホームページ 特別支援教育のページから

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shien/tokubetsushien/gouritekihairyo.html>

今回は、この様式を使い、どの子ども輝けるような指導を目指した指導計画を考えてみたいと思います。

気づきから支援へ！ きめ細かな指導を目指して！！

担任の先生や教科指導の先生の気づきが支援の第一歩です。学習での様子や友達とのかかわり、学校生活の中で、子ども自身が困っていたり、「もしかしたら〇〇を苦手としているかも」と気づいたりする場面があるかと思えます。その「気がかり」や「気になる」といった思いから支援が始まります。

それらの気がかりや気になる思いを個別の指導計画に書いてみましょう。たくさんのことを書く必要はありません。その子の困り感に寄り添い、自己肯定感につながる手立てを考えていく事が大切です。例えば、いくつかの気になるポイントを挙げてみます。

- ① テストをしてみると〇〇の教科の〇〇が苦手なようだ。
- ② ノートに黒板の文字を写すのに、かなりの時間がかかっている。
- ③ 教科書の音読では、行をとぼしたり、一文字ずつ読んだりしている。
- ④ 聞き間違いが多く、友達とトラブルになることがある。
- ⑤ 整理整頓が苦手なようだ。

など



一次支援

の大切さを再確認しましょう！

葛南教育事務所の重点目標にも掲げている、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校環境、授業づくりは、管内多くの学校が意識をしながら取り組んでいます。

「一次支援」が充実することで、個や特性に応じた支援の効果も上がります。



「個別の指導計画」は一人ひとりが輝くためのツールです！！

☆事例Aさんについて

Aさんは、通常学級に在籍している小学校3年生です。電車や自動車に興味があります。友達よりは、大人との会話を好みます。友達に対しては、自分の思いが上手に伝えられずにコミュニケーションをとることが難しい様子です。学習では、文字を整えて書くことが苦手です。特に漢字を覚えることが苦手です。書く作業が多くなると、途中でやめたり、わざと雑に書いたりして意欲的に取り組めないことが多くあります。算数が得意で、計算は速く解くことができます。本人の願いは、漢字テストで100点をとりたいと思っています。Aさんに対してどのような配慮と支援が考えられるでしょうか。

【個別の指導計画様式 例1】 平成28年〇〇月〇〇日 記入者 葛南 太郎

3年〇組 児童生徒氏名 Aさん の個別の指導計画
 生年月日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生 〇才 : 入学年月日〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

◇生育歴
 ・〇〇幼稚園 ・〇〇病院で〇〇年に〇〇と診断を受ける

◇支援が必要だと思われる状況
 ・文字の読み書きが苦手で、特に漢字を覚えることが難しい。

◇これまでの取組
 ・保護者や通級指導教室担任と連携し、学習場面で配慮をしながら取り組んでいる。

◇他機関での支援
 ・〇〇支援センター ・〇〇病院(Dr〇〇) ・放課後児童デイサービス

本年度の目標(28年度)
 ○文字を書くことへの苦手意識をなくし、ノートのマスや行からはみ出さずに正確に書くことができる。

短期目標(28年度:9月~12月まで)

	現 状	目 標	主な支援方法・内容	経過(記入日)	評価と課題(記入日)
生活面	○比較的短い時間であれば、見通しが持て、集中して取り組むことができる。 ○自分の気持ちや考えを言葉で伝えることが難しい。 ○文字(漢字)を書くことが難しい。	○「いつ」「どこで」「誰と」「何をした」の順番を意識して話をするができる。	○「いつ」「どこで」「誰と」「何をした」の順番に話を聞くようにする。		
学習活動面	○算数が得意で、計算は速く説くことができる。 ○文字の大きさや形を整えて書くことが苦手である。 ○板書の写しや、ノートやプリントへの書き込みに時間がかかる。	○2cm四方程度のマスや行からはみ出さないように文字を書くことができる。	○2cm四方程度のマスや行のノートやプリントを用意する。 ○授業によっては、ポイントだけを書き込むプリントを用意する。 ○書く時間を長めにとる。	○10月〇日	○教科によっては、2cm四方程度のマスや行からはみ出してしまふ。(縦書きが苦手) 縦書きについては1学期に行ってきた、3cm四方程度のマスや行を使う。



実態に合わせたマス目設定で、定期的にその大きさが適切か評価をすることが大切です！

実施した合理的配慮については必ず、評価・修正を行うことが大切です！支援を継続するのか、修正した方がよいのかも記入します。

この支援は、Aさんだけではなく、他の児童にも有効な場合が多くあります。

平成27年度 特別支援教育通信 NO. 4を参照してみてください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-katsunan/tokusituusin4.pdf>

PDCAサイクルを忘れずに！！

言うまでもなく個別の指導計画は、書いて終わりではありません。常に評価をして見直し、次への指導に生かしていくことが大切です。自分の指導(手立て)が有効であるか見直し、修正することが大切です。手立てが有効に感じていないときには、自分ひとりで考えるのではなく、特別支援教育コーディネーターや学年で相談してみましょう。チーム学校で対応していきましょう！！

